

新教材研修カリキュラム

カリキュラム	内容	具体例
1. 戦略的活用編	<p>自社にある経営資源・知的財産を活用し、ビジネス展開を有利に発展させる戦略について、事例を基に多面的な考え方を戦略的に考察する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特許権と意匠権を取得の上で新商品の売上げ拡大に成功。(1-1)</li> <li>・展示会に出展。熱弁をふるって秘匿すべき情報まで開示した結果、翌年には大きく改良された他社製品が溢れる。(1-2)</li> <li>・大企業との連携で箔が付くという理由で共同開発に応諾するも開発後、自社の売上げにつながらないことに気づく。(1-3)</li> </ul>
2. トラブル対応編	<p>事業展開を進める中で起きる様々なトラブル事例から、起こり得る事態を未然に防止する対策、あるいは起きてしまった後の対策を考察する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・知人に紹介してもらった代理店に押し切られて口頭説明とは異なる内容の契約書で独占販売の権利を付与してしまい、契約書に記載なしとして在庫買取・解約を断られてしまう。(2-1)</li> <li>・製造委託先に自社のコア技術まで技術指導。また、委託契約解消後の特許技術の使用に関する取決めをしなかったためにトラブルが生じる。(2-2)</li> <li>・模倣品が出現したものの、改良アイデアと開発資金があったことから、短いスパンでの製品改良によって競合を突き放す。(2-3)</li> <li>・訴訟の労力を回避するため、全面的には妥当性がない警告に応じた結果、他社からも同じような警告を受ける。(2-4)</li> </ul>

カリキュラム	内容	具体例
3. サステナブル経営編	<p>企業の内部外部において自社の価値を高め、知的資産を棚卸して整理、評価し、事業継続・事業継承を踏まえ将来を見据えた新たな戦略を検討する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・巨大台風により、長年、調味料を作り続けてきた工場が浸水。再建のための会合で経営デザインシートを活用。ブランドと品質の復活とさらなる発展に向けた行動を起こす。(3-1)</li> <li>・新製品開発に当たり有望な企業と技術提携を持ち掛ける。結果、ライセンス、サブライセンスと協力関係を構築、開発後も密な連携を保つ。(3-2)</li> <li>・事業提携の交渉をしていた他社が、自社と同様のサービスを立ち上げ。NDA は有効期限切れのため、SNS への投稿等のほか、ベンチャーならではのスピード感で勝負。(3-3)</li> </ul>
4. NEXT IP 編	<p>将来のありたい姿を目指し、次世代の IP 戦略構築を考える新事業新商品を展開する企業では、持続性あるモノとコト、企業と企業、企業と消費者、企業と従業員、さらに様々な外部環境(気象、市場、疫病、電子化…)を見据えた知的資産の活用について考察する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・建築土木業界への女性進出を目指す。SDGs も追い風になり話題となる。女性の活躍に向け、技術やノウハウを積極的に伝えていく。(4-1)</li> <li>・自転車シェアリングのシステム開発をアジャイル開発にて行ってきたが、競合の出現から特許権取得を検討。自社の事業戦略に合った仕組み作りから始めることに。(4-2)</li> <li>・サステナブルな素材のストローの開発に取り組む中、競合企業が躍進している事実を知る。対抗して、知財戦略の見直しを行い、競合に負けない資金調達も</li> </ul>

カリキュラム	内容	具体例
		<p>目指す。(4-3)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社内の技術者・役員全員が出席する研究発表会で技術者が研究成果を発表。複数の部門からの質問に応え、知財戦略の検討等、社内の横断的協力を得つつ製品化を目指す。(4-4)</li> </ul>
5. マーケティングミックス編	<p>新たな商品やサービス、ビジネスモデルによる事業を展開するなかで、ブランド、デザインなどを複合して活用し、マーケット創出を有利に進めていく戦略を実践した事例から経営に活かす知的財産活用を考察する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新製品の販売代理を大手商社に打診するも、独占販売権を条件に持ち出され断念。自ら営業を行うことを決意し、STP 分析やSWOT 分析等を通して知財戦略を見直す。(5-1)</li> <li>・市の伝統野菜の復刻のため、NPO 法人を立ち上げ、地元での普及活動を行う。地域団体商標を取得し、伝統野菜を地域ブランドとして育てていく。(5-2)</li> <li>・マッサージチェア開発にあたり、高性能化を図るだけでなく、斬新かつ普遍的なデザインをデザイナーに依頼。技術とデザインの両輪で成功を目指す。(5-3)</li> </ul>

以上